

## 帷子川で時間降雨量 60mm 対応の河川整備に着手します ～高まる自然災害リスクに対応、更なる治水安全度の向上を目指します～

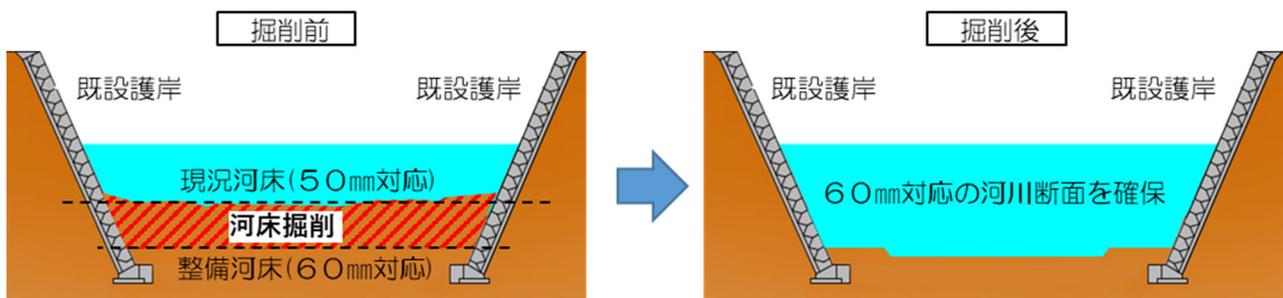
近年の気候変動により大雨が増加し、自然災害リスクが高まっています。このため、令和2年度より全国の河川で治水対策を充実させるために「流域治水」の考えが国より示され、令和3年度には市内河川においても「流域治水プロジェクト※」が策定されました。

流域治水プロジェクトでは時間降雨量 60mm 対応を進めることを位置づけており、さらなる治水安全度の向上に向けて、市内河川の整備水準を 50mm 対応から 60mm 対応に引き上げる必要があります。

この度、帷子川（かたびらがわ）において 60mm 対応の整備に着手することについて、下流区間の河川管理者である神奈川県との協議が令和5年9月末に整いましたので、次のとおりお知らせします。

### 1 整備の概要

- ・ 県市の施工境である中堀川合流点から上流に向かって、順次川底を掘り下げ、時間降雨量 60mm の流量に対応できる断面を確保します。まずは、既に 50mm 対応の整備が完了している区間から着手します。
- ・ 50mm 整備中区間については引き続き 50mm 対応の整備を進めていきます。
- ・ 令和5年度は工事用車両等が川底へ下りるための斜路の整備に着手します。



時間降雨量 60mm 対応の河川整備のイメージ

裏面あり

## 2 帷子川の概要

帷子川は、旭区若葉台を源として、相鉄線に沿って流れ、横浜駅西口付近で分派しながら横浜港に注ぐ、延長約 17km の二級河川です。

昭和 33 年の狩野川台風による災害を契機に本格的な河川改修工事が始められ、横浜市の事業区間は、中堀川合流点より大貫橋までの 6.17km です。

また、帷子川は「アユが遡上する街、ヨコハマ」のモデル河川として、魚道整備や生息環境の改善などに取り組んできました。川底を掘り下げる際には、遡上するアユなどの生態系にも十分配慮して進めます。



帷子川で確認されたアユ



中堀川合流点の状況

### ※「流域治水プロジェクト」とは

令和 2 年 7 月に国の社会資本整備審議会河川分科会から「関係者が協働して流域全体で対応する「流域治水」への転換」について答申がなされ、流域全体で早急を実施すべき対策の全体像を示した「流域治水プロジェクト」を一級河川及び二級河川水系で作成することになりました。

市域では、鶴見川水系、帷子川水系、大岡川水系、境川水系にて、「流域治水プロジェクト」を策定し、流域治水対策を推進しています。

お問合せ先		
道路局河川事業課長	時尾 嘉弘	Tel 045-671-3981